

令和3年度京丹後市観光立市推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年10月14日（金）午前10時15分～
- 2 開催場所 京丹後市役所峰山庁舎 201会議室
- 3 出席者等 坂上英彦会長、齊藤修司副会長、浅田高史委員、和田正人委員、友田夕子委員、今井みどり委員、丸田智代子委員、濱口真一委員、中川秀雄委員、山口洋子委員、味田佳子委員、上田美知子委員、松尾信介委員、前田尚委員、田矢佳子委員、伊豆田千加委員、谷口正郎委員、大亀一穂委員、前田将汰委員、秋田裕美委員、久田千恵子委員、桐村博明委員、村上章委員

事務局	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	木村嘉充
	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	木本貴文
	京丹後市商工観光部長	高橋尚義
	〃 商工観光部観光振興課	大江裕、下戸裕子、山添力也、 牧野伸伍、林有彩
市関係部局	健康長寿福祉部健康推進課	金木泰憲
(zoom参加)	農林水産部農業振興課	松下幸弘
	商工観光部商工振興課	島貫博志
	教育委員会生涯学習課	安達純

- 4 議題及び会費の公開又は非公開の別 【公開】
第4次京丹後市観光振興計画の策定について

- 5 傍聴人の数 なし

- 6 発言の内容（要旨）

1 開会挨拶

<高橋商工観光部長>

おはようございます。本日もお忙しいところ、また急なご案内にもかかわらず、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、まだお一人みえてはいませんが、始めさせて頂きたいと思っております。令和4年第1回京丹後市観光立市推進会議ということでございます。私、本日の司会を務めさせていただきます商工観光部長の高橋と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは会議に先立ちまして、本推進会議の委員の委嘱をさせていただきたいと思っております。今年8月末をもちまして、前委員の任期が終了をしております。本日が新体制での会議第1回目ということで、事務局より事前に委員のご就任のお願いをいたしましたところ、快くお引き受け頂いております。誠にありがとうございます。時間の都合上、中山市長より、代

表の方に委嘱通知書をお渡しさせていただき、その他の皆様には大変申し訳ないですが、委嘱通知書をお手元に置かせて頂いておりますのでご確認をお願いいたします。

それでは、委員を代表しまして、一般社団法人京都北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部地域本部長の京丹後市観光公社理事長齊藤修司様、前の方へお進み頂きますでしょうか。よろしくお願いいたします。

それでは、改めまして、私の方から、本日委員の皆様をご紹介させていただきたいと思っております。第1回目、初めてということで、お手元の方に、委員名簿とそれから、座席の配席表をお配りさせて頂いておりますので見比べながらご確認頂きますようお願いをいたします。この委員名簿に沿いまして、ご紹介をさせて頂きますので少しお立ちいただけるとありがたいという風に思います。上段からご紹介させていただきます。

－「京丹後市観光立市推進会議」委員名簿の順に紹介－

以上委員ということで、本日からお世話になりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします

また委員の皆様におかれましては、令和4年10月1日から令和6年9月30日までの2年間の任期となります。どうぞよろしくお願いいたします

次に、本日ご出席の皆様をご紹介させていただきましたが、先ほど、ご欠席をされました4名様、またお一人お越しになられておりませんが、本日の出席は委任状を含めまして、26名ということになっておりますので、委員定数の半数以上を満たしております。京丹後市観光立市推進条例第28条第2項によりまして、会議が開催できますことをご報告させていただきます。

続きまして、会長、副会長の選出を行いたいと思っております。条例第27条によりまして委員の互選により、会長1名、副会長1名を置くこととなっておりますが、どなたか立候補いただける方はございませんでしょうか。特にございませんでしょうか。では、どのようにお決めをさせていただいたらよろしいでしょうか。皆様のご意見を頂戴したいと思います。

「事務局一任」の声をいただきましたので、事務局一任ということで、事務局案をご提案させていただきたいと思っております。以前の体制に引き続きまして、会長には坂上先生に、嵯峨美術大学の坂上先生をお願いをさせて頂き、また副会長につきましても、引き続き観光公社の齊藤理事長様をお願いをしたいと思いますと思っておりますが、皆様ご異議ございませんでしょうか。ありがとうございます。それでは、「ご異議なし」ということで、会長には坂上先生に、副会長には齊藤副会長に、引き続き、お世話になりたいと存じます。では、坂上会長、齊藤副会長 前方の方へ席をご移動いただけますでしょうか。ただいま、丹後織物工業組合の濱口様にご到着されましたのでご紹介をさせていただきます。以上でございます。

それでは開会ということ坂上会長様にまずご挨拶を頂戴したいと思います。

<坂上会長>

ただいま、ご指名いただきました坂上でございます。会長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。第1次から第3次の観光計画につきましてもご担当させて頂きましたので、大きな失態もないということで、また引き続きご指名頂いたと理解しております。よろしくお願いいたします。

さて、観光はこの3年間あまりコロナの状態が続いておりましたが、ようやく、これも冷めつつあるのではないかなという風を感じているところでもあります。国内外ともに、観光発展がさらに飛躍的に伸びるのではないかなという風に思います。特に円安が非常に進行しておりまして、インバンドがコロナ前よりも増して大きな期待がされるのではないかなという風を感じております。また、この計画期間の2025年には大阪万博というものもありまして、比較的近いところで大きな集客イベントがあるということを視野に置いておく必要があるかという風に思っております。京丹後は素晴らしい資源がたくさん多様にございますので、これまでのままでいいとは誰もここの場では思っていないと思います。またもっと発展できるのではないかという風に皆さんも思っているのではないかという風に思います。これが事実ではないかなと私はずっと感じております。丹後人は、やや控えめだということを知ることがありますので、この際、少し前に足を踏み出す必要があるのではないかと感じております。4次の計画では皆さんの想いを、ぜひ実現をして参りたいと思いますのでよろしくご協力をお願い申し上げたいと思います。ありがとうございました。

<高橋部長>

はい、坂上会長様ありがとうございました。では続きまして、中山市長より本日の会議の開催趣旨も含めましてご挨拶を申し上げます。

<中山市長>

ご紹介頂きました中山でございます。今日は今年度第1回の観光立市推進会議ということでお集まりをいただきました。京都市内からは坂上先生をはじめ、またそれぞれ大忙しい皆様にお集まりいただきました。ありがとうございます。日頃も、観光行政はじめいろんな分野で、町の発展、地域の発展のためにお力添えを頂いております心から感謝申し上げます。

さて、コロナの方も、今先生からもお話ありましたけれども、全国的にも、だいぶ落ちてきて、コロナに向き合う政策の在り方も全数把握から重点管理ということで移ってきて、同時にウィズコロナのなかでの様々な活動再開、これが本格的に展開をし始めている中で、観光めぐっても、全国旅行支援制度も11日から始まってきたということでいろんな我々に向かう動きも加速をし始めているんじゃないかなという風に思っているのですが、これを確実に観光のさらなる展開に、11月6日からのシーズンも始まりまして繋げていきたいなという風に思っております。通年観光ということを目指しながら、様々な観光資源をあげてそれめがけて、多彩な形で来ていただくような観光を、この秋からしっかりと作っていききたいなという風に思っております。そんな中で、我々、観光立市を掲げて、条例作ってそしてマスタープランであります観光振興計画というものを、3次に渡って持ちながら進めているわけでありまして、いよいよ4次の観光振興計画を作る、そのタイミングを迎えたということで、今日はその策定に向けて、いろんなご意見をお聞かせいただきたいということで開催をさせていただいたところでございます。この3年間、令和2年3年というのは、ご案内のとおりでありまして、3次の計画はあるわけですが、観光災害みたいな一面もあるこのコロナの多大な影響のなかで観光を巡って本格的な取り組みがほとんどできていない、これは全国どこでもそうですけれども、そういうような状況であったかというふうに思っております。いよいよ、これからという時に、この3次あるいは、この2年3年の時期をどう活かしていくかということが、また問われると思っておりますが、観光分野においても、

旅行者あるいは社会的な価値観ニーズの変化ということもあるのではないかとこのように思っております。たとえば観光で言えば、団体からより一層個人へ、あるいはインバウンドで言えば、いわゆるゴールデンルートから地方への一層の分散、そして名所旧跡を回る旅行から地域の固有の価値に触れる旅というものが、さらに一層クローズアップされてくる、そんな時代を迎えつつある、そんなのが始まっているという風にお聞きをすることでございます。

これは、我々京丹後にとって大きなチャンスである理由で、他の町以上にチャンスであるというふうに思っております。我々の町、多様な歴史文化を持つ、また豊かな海山里の自然、多彩な食そして何より地域で暮らす人々の魅力、あるいは健康長寿など、地域のあらゆる場面に隠れた魅力資源を持つのが、本市であるということで、これを活かすチャンスがやってきたと、いうことかなというふうに思っております。

次期の計画期間を見据えた時に、この多種多様な素晴らしい我々の資源を新たな観光価値として磨き上げていくということも、これまでの観光に加えていくという一面が必要ではないか、そして、それを国内外に発信をしていくことが、その結果、例えば今求められるSDGsとか安全安心とか環境配慮とかといった時代の求めにも合致するようなそんな観光が自ずとできる地域に我々は住んでいるんだということを、改めての出発点としていきたいというふうに行政としては考えているところでございます。今日は、そういった次の観光の計画に向けて本市に埋もれている宝の数々にいろいろ光を当てていただいて、そして観光事業者の皆さん、そして観光業者のみなさんだけではなくて、多くの産業そして市民の皆さんが、この観光という分野に参画をして、ふるさとへの誇りとなり、未来への活力となる新しい市民みんなの観光の姿というものが描けるような、そんなビジョンになっていけばいいなというふうに願っております。忌憚のないご意見をお聞かせいただきますよう心からお願い申し上げます。開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いたします。

<高橋部長>

はい、ありがとうございます。市長は、ここで別の公務がありますので、退席をさせていただきます。大変申しわけありません。

それでは続けたいと思います。次に本日の会議資料を確認させていただきたいと思っております。会議資料ですけれども、まず本日配布をさせていただきましたものは、次第それから出席者名簿また配席表、資料6ということで、第4次京丹後市観光振興計画のコンセプト案、さらには、海の京都コインという風なチラシをお配りさせていただいております。まずここで5種類、本日配りさせていただいているところであります。それから、お手元のファイルの方ですが、事前に送付をさせていただいておりました資料1から5に加えまして、新たに参考資料1から4をとじております。本日、事前配布資料お忘れの方はこちらをご覧くださいというふうに思います。配布漏れ等ありましたら、お申し出いただければと思いますが、ご教示いただければ資料をお持ちしたいと思っております。

それでは、会議の方に入らせていただきたいと思います。

本日の会議ですが、今年度をもちまして、現在の第3次京丹後市観光振興計画の計画期間が満了しますことから、来年度から令和9年度までの5年間につきまして、新たな第4次観光

振興計画を策定するにあたりまして、委員の皆様のご意見をお伺いしたいというものでございます。

条例第28条の規定に基づきまして、ここからは坂上会長に議長をお世話になりまして議事を進めていただきたいと存じます。坂上会長どうぞよろしくお願いをいたします。

<坂上会長>

ではよろしくお願ひいたします。座らせていただきまして進行させていただきます。会議に入ります前に、会議録確認者の氏名をさせていただきたいと思ひます。齊藤さんと浅田さんにお願ひしたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

本日の会議のテーマは、先ほど高橋部長からございましたように第4次観光振興計画の策定について皆様のご意見をお伺いしたいということでございます。第4次の計画の策定にあたりましては、本日の全体会議までに、7名の委員によりまして検討部会を立ち上げまして、3回にわたり議論を重ねて参りました。本日はここに、第4次計画の素案として基本方針や基本戦略等の骨格というものが、案がまとまっておりますので、委員の皆様にお諮りしたいと思ひます。事務局からは、本日と次回の第2回の全体会議を持って計画案としてとりまとめ、市議会に12月定例会へ上程していきたいと聞いております。限られた時間にはなりますが、委員各位の積極的なご意見を賜りたいというふうに思っております。議会上程というのは条例に基づいていますので、議会に承認を得なければいけないということでございます。それでは、関係する資料について事務局から説明をお願ひしたいと思ひますが、できるだけ議論の時間を取りたいと思ひますので、要領よく簡潔にお願ひします。ではよろしくお願ひします。

<大江課長>

観光振興課の大江と申します。よろしくお願ひします。たくさん資料ございまして、本当にかいつまんだポイントのみのご説明となりますが、ご容赦ください。資料1から6まで説明させていただきます。まず、資料1をご覧ください。

ここに、並んでおります数字、これが第3次計画の各指標の数値でございます。緑のところに、平成28年度でこういう数字だったのを令和4年にこういった数字に持っていきたいという計画でございました。ブルーの部分がその推移でございまして、一番右端を見ていただきますと令和2年令和3年辺りからコロナの影響を受けまして、随分数字が落ち込んでいるということでございます。それぞれの数値につきましては、ご説明を割愛しますが、状況としてはそういったところでございます。

続きまして、資料2をご覧くださいと思ひます。

資料2、カラーのパワーポイントの資料でございますが、この第4次計画の策定のスケジュールについて皆様とイメージを共有させていただきたいということで、中ほどに序章から第3章まで書いてございます。正式な計画にする中で若干動くと思ひますが、概ねこのようなイメージで、項目立てをしていきたいと考えています。赤色の点線でくくった部分は、課題の確認、あるいはその対策の方向性です。第2章になりますが、コンセプトであったり、目標数値であったり、基本方針、基本戦略、それに基づく第3章といったあたりを、先ほど会長からございました検討部会で議論をして参ったということでございます。それを今日は皆様にご報告をしてご議論頂くということです。この後、10月の本日が第1回の推進会議ということで、11月ぐらいに2回目をお世話になりたいと思ひています。12月定例会に計画案と

してお出ししまして、パブコメも含め、3カ月間議会の方で揉んでいただいて、3月議会において計画として議決をしていただきたいということで考えております。

続きまして、資料3をご覧ください。A3横型の資料でございます。たくさん文字が書いてございますが、左から第2次計画、3次計画とありまして、たて列を見ていただくと、コンセプト、課題、基本方針、基本戦略ということで、文章的には少し割愛といたしますか、短くして書いてありますが、2次3次ではこういった形でやってまいりました。今回、第4次にいくにあたりまして、この間の緑のところにありますように、状況の変化がそれぞれありますので、課題プラスこの今の時代の変化を溶け込ませて、第4次を作りたいという趣旨でございます。その下に社会情勢、価値観の変化、観光ニーズ、地域情勢と4つでくくっておりますが、それぞれご覧頂いて、こういったことが、今、世の中で起きているということでありませう。3番目の観光ニーズを少し見て頂きますと、あらたな動きとしてワーケーションというものが出てまいりましたし、観光目的、先ほど市長の挨拶にもございましたが、名所旧跡をめぐる物見遊山なものから、地域のそれぞれ中にある資源、価値を探し出す旅ということで、目的は多様化しているということが言えるのではないかと思います。大阪万博なんかもございます。

そして、そういったことも反映する緑のところでございますが、大まかな方向性としましては、第3次計画は「食」をメインに打ち出しておりましたが、プラス「人」であったり、地域や他産業との繋がり、そういったものを溶けこまし、観光というよりも交流あるいは関係づくり、そういったイメージで第4次は作っていくべきではないかと言ったことがこの間議論されてきました。

右端に第4次計画案がありまして、一番上の課題があります。全てご紹介しませんが、今までなかった新しいものとしましては、6番目のウィズ アフターコロナ対応、7番目のふるさと納税、11番目の新たな観光価値あるいはSDGs観光と国際標準化と、そういったものを課題として挙げております。それらの課題を克服していくということで、その下に1番から6番まで基本方針を案として考えています。これらは文章表現ではなく、言葉だけ、項目だけが上がっておりますが、最終的には、これを計画にしていく上で文章化していくことになると思います。

まずは、1、2、3は、大体コンテンツです。1番目は食ということで我々の強みであります、引き続き食を活かしたいということで、中でもフルーツが非常に多品種で、そして6月ぐらいから10月11月ぐらいまで長い期間にわたって色々なものが収穫されますので、これをもっと打ち出していこうというご意見が非常に検討部会のなかでは強くございました。②、③は、漁業との観光、農業との観光を掛け合わせていくと言ったことでございます。

2番目のオールシーズンツーリズムです。一番大きな課題は、夏と冬の二季型で春秋が非常に弱いということと平日を強くしていきたいということで、中身としましては、ビーチの活用であったり、森、里山、今まであまりやってこなかった分野ですが、グリーンベルトと呼んでいる分野についても観光開発をしていきたい。あるいは百歳健康長寿のまちとして、ヘルスウェルネスの分野にチャレンジをしたい、あるいはスポーツ、ビジネスということでMICEといった部分にも取り組むべきではといったご意見が上がっています。

3番目の世界に響くSDGs観光では、ビーチ保全。今まではお客様は綺麗にして迎え入れるという考え方だったと思いますが、最近の訪れる方々の価値観の変化もあって、一緒に手伝っていただく、観光客自らがその訪れる地域を保全していただけるという流れが今生まれておりますので、ここにスポットあてていきたいということでありませうし、サステナブルとい

うことで、国際標準に則った宿泊施設も増やしていくべきではなかろうかと、あるいは歴史文化財、なかなか活用できていない分野ですが力を入れるべきではということです。

4番目、安全安心、快適、これは観光地としての環境整備というカテゴリーになるんですが、交通インフラが脆弱であるという点。例えば京都縦貫道も大雪になったらストップしてしまうということもございますし、そういった交通インフラ、あるいは外国人観光客を今からお迎えするにあたって、受け入れ部分の施策も必要だということです。

5番目は、DXということで、デジタルマーケティングや、DXを使った誘客も新たな取り組みとしてはどうかということでもあります。

6番目、地域ぐるみで進める観光地づくりということで、第3次計画と現在の最も大きな違いの一つは、京丹後市では、令和元年度に観光公社が発足されております。これまでのタビナカのご案内からタビマエ、旅行の行き先を決めておられないような方々に対するアプローチを、観光公社ができたことで出来るようになってまいりましたので、この組織であったり、会員さんであったりを強化していきたいということもございますし、あわせて異業種の方にも、どんどん参画してもらおうということもございます。

続きまして、資料4をご覧ください。資料4が骨子案ということで、先ほどの第4次計画の基本方針、基本戦略が、左と真ん中に並んでおりまして、その中で、こういった具体的な施策をやっていくのかといったご意見が、アクションプランとして右側にまとまっております。まずは1番の食の関係でございますが、フルーツの6次産業化、あるいは旬の魚介類であったり、浜買い、あるいは旬の食材を活用した食事が実際できるような形に持っていく必要があるだろうといったことです。

2つ目のオールシーズンでございますが、ビーチを夏以外の春秋にも活用できるようにイベントを増やしていこうということでもありますし、3-1にありますようなグリーンベルト、里山の部分、森、川、海につながりで新たな旅を作っていこうということでもあります。合わせてeバイク、市の方でも今年から動き出しておりますが、京丹後中にある豊富な資源を、車で通り過ぎるのではなく自転車で時間をかけて回ってもらい、できれば海水浴、カニに次ぐ第三の観光資源にしたいという思いもございます。健康長寿のまちとしてのヘルスツーリズムや、久美浜湾のカヌー競技場や陸上競技場も整備されましたので、大会誘致ですとか、ビジネスユースに基づく企業向けの取り組みも強化しては、そういったこともご意見としてあがっております。

3番目、世界に響くSDGs観光では、先ほど申しました海岸清掃の取組、あるいはジオトレッキングや教育旅行、あるいは他の産業とのコラボでございます。

4番目の観光インフラの関係ですが、施設がどうしても古くなってきておりますので整備をする必要があるだろうということ、あるいは高速道路に関する要望活動も必要だろうということ、また、車で来られる方が9割ぐらいの地域でございますので、もっと車でスムーズに移動ができるような取り組みができないかということもございます。

5番目の観光DXでは、もう既に観光公社で始めているところではあります、デジタルマーケティングやSNS戦略を強化する。あるいは訪れた方の行動分析をもっとするべきではないかということでもあります。それと航空会社さんとのコラボをしていきたいということでもありますし、デジタル技術を活用した観光コンテンツも開発してみようかどうか、あるいは万博への取り組みを強化しようといったことです。

最後6番目でございますが、観光公社発足から4年目ということで、市内180件ぐらい宿泊施設ありますが、まだ7割ぐらいしか会員に加入されていません。できれば皆さん入ってい

ただ、あるいは異業種の方にも参画していただく。そしてクーポン券なんかを使って商品を作っていくべきではないか、あるいは人的な補完や人材確保、そういった部分も取り組んでいくべきであり、これらを実現していくうえでの財源ですね。観光に取り組む際の財源を確保したいということで、観光税も一度検討してみてもどうかという意見も出ておりました。

続きまして資料5をご覧ください。資料5は、KPIの案でございます。左に指標が並んでおりますが、上の4つが、観光入込、宿泊、外国人宿泊、観光消費額という主要項目で、これらについては引き続き第4次でも指標として追っかけていきたいというふうに考えております。その下、サブ項目としまして、第3次計画では、様々な体験の参加者数や、食の満足度や認知度などがあったのですが、指標として取りづらいということもございますし、今回、第4次計画の大きな課題が、一度は訪れたい観光地というよりは、何度も訪れたい観光地を目指したいということで、何度も訪れなくなっているのかといった指標を持つてはどうかということです。リピーター率なのか、再訪意欲なのか、そういったものを持つてはどうかということです。また、二季型から通年型にしていくために様々な施策をやっていく中で、実際に平準化がどの程度進んでいくのかといったあたりも指標で持つたらどうかということもでございます。この新たな2つと主要の4つを合わせたものを第4次のKPI案として持つてはどうかということもでございます。

最後になりますが、資料6をご覧ください。計画にはコンセプトというものがあります。それを今申し上げたような基本方針だったり課題感であったり、その戦略そういったものを踏まえて、一言でどういう形で表現していくのかということもでございますが、いろんな意見がありまして、A案からF案まであります。タイトルについて紹介しますが、A案、「なつかしい未来のふるさと～海・森・里山つながる味わいと歴史文化の郷～」です。考え方としては、右の「ポイント」に書いてございます。懐かしいふるさと、その魅力を、もう一度未来に向けて新たな観光価値にしていましょうということ。海、森里山の自然とプラスそういったものをつなぎ合わせて、魅力溢れるふるさとに持つてきたい、そんな思いがここに込められております

B案ですが、「進化するふるさと京丹後～ヒトつながる感動時間～」ということで、A案と似ていますが、なつかしさ、故郷、そういったにおいが込められております。そして過去から未来へ繋がっていくこと、京丹後流れる時そのものが観光価値だともそういったことをB案では盛り込んでいます。

C案は、「人の環(わ)広がるふるさと観光立圏～なつかしい未来、会いに行く京丹後～」です。ここでは、「人」というものにクローズアップしておりまして、やはり人のコミュニティが大事だということ。そして観光というニュアンスを「会う」という言葉で表現しております。そして観光で地域が成り立つオール京丹後、観光立圏という言葉で表現しております。

D案ですが、「Belt of Venus、京丹後～ふるさと、ヒト、自然、未来がとけこむまち～」です。聞きなれない言葉ですが、日没、日の出前に現れるビーナスベルト、ぼんやりと空がピンク色に染まるといったものをインバウンドも視野に入れながら、サブタイトルにある項目が溶け込んでいく様子を、この言葉で表現をしているということもでございます。

E案、「市民全員エヴァンジェリスト、京丹後～ふるさと、ヒト、自然、未来まるごと観光資源～」です。これも「人」にスポットを当てるということで、市民皆が伝道師として価値を伝えていくということで、総ぐるみでやっていましょうということが、ここにはあります。

F案、これは検討部会でこんなイメージでどうでしょうということでもとまった案ですが、「彩り・味わい京丹後-海・森・里山つながりの郷-」というもの。京丹後の一番の強みは、やはり「自然」であり、これは色んなアンケートの結果からも、京丹後には「自然」を求め、来られた方の最も満足度の高いものが「自然」であるということから、「自然」を全面的に出し、プラス食も打ちだしましよということでもあります。自然の素晴らしさを伝えるには、人の介在が必要だということで、人の繋がり、あるいは、この豊かな自然を未来へつなげていこうという繋がりから、つながりの郷という言葉が入っております。6つの案につきましては、そういった内容でございます。

説明は以上でございます。

<坂上会長>

ご説明ありがとうございます。

ただいまの説明に対して意見ご質問をいただきたいと思います。急にたくさん問題提起がなされて、どれから言っていかわからないかもしれないのですが、主に資料4と5と6についてご意見を頂きたいと思います。同時に全部やりますと大変ですので、一つずついきたいと思います。

まず、最後にご説明頂いたコンセプトの案が6つございます。通常、行政からどれがいいですかと提案される時には2～3案だと思いますが、6つも出てくるというのは、相当事務局も困惑をしていると想像できます。あまりにたくさん魅力ある資源があるのでどう表現していいか、いろんな切り口がある中で、是非これが近いんじゃないかとかいったご意見を頂けたらなと思いますが、いかがでございましょう。どなたでも結構ですので一つずつ全員ご意見をいただきますと予定があと1時間しかございませんのでご自由に挙手いただきまして、ご意見いただければと思います。

<委員>

一期二期三期を知らないというところからですけども、この四期のところで質問なのですが、多分これ観光なので、あまり触れてはいけないのかもしれませんが、長寿が全然入っていない。ヘルスツーリズムという形では入っているのですが、私が、この京丹後の宣伝をする時には、長寿率3倍というのが一番食いつくのです。自然というのはどこにでもあって、森から海が近いということも大事なのですが、ヘルス、長寿という視点が入らないのかなという意見が一つと、この計画6つのコンセプトですが、誰に発信していくのか、今後私たちが皆で掲げて、お客様に対して行っていくのであれば、分かりやすいほうがいいだろうなと思いますし、そういう意味では、私はF案が一番わかりやすくいいのかなと思いました。意見です。

<坂上会長>

事務局、何かコメントありますか。

<事務局>

長寿はおっしゃるとおり京丹後市の強みですし、今の時代の流れにも合致すると思いますので、施策の中身には入っているのですが、コンセプト的には出てこない感がございますので、検討の余地が大いにあるのではないかと思います。誰に向けて発信するというのも検討

部会でいろんな迷いがございまして、お客さんに向けてコンセプトを作るのか、あるいは我々関係者がどういう方向を目指そうというものとして持つのか、その辺りもですね、皆様のご意見があると思いますので、含めてご意見いただけたらと思います。

<坂上会長>

例えば、テレビでコマーシャルする、プロモーションするというのは、多分これではないと思います。もうちょっとキャッチな言葉を使っていくのではないかと思いますので、これはちょっと「そうではない」という風に理解頂けたらありがたいと思います。

<委員>

丹後織物工業組合、丹後オープンセンターというのが、今度できるのですが、この12月から丹後織物工業センターの中央加工場というところを工場見学ができる施設として、12月7日が一応出来上がりということで、来年の3月あたりからお客様を迎えることを考えております。それに伴って、約580社ある組合員のうち、実際に工場見学ができる事業者さんが、今はまだ三つか四つしかないのので、丹後ちりめんのできる地域というのを観光資源としてアピールできるよう、5カ年の計画を立てている最中です。産業観光というところで、例えば、日本酒の酒蔵のイベントも重要だと思いますし、丹後王国ブルワリーのビールの工場見学もできたり、今あるもので見学できる所を増やしていくという産業観光の振興の形ができればありがたいと思います。丹後ちりめんの300周年が、この前ありましたし、目の前にある建物が丹工の建物でしたし、その奥の病院も丹工の組合員さんの出資によってでき、この町の形成の中にちりめん産業というものがあつたということが事実としてございますので、実際その事業者さんも、たくさんいらっしゃいますので、例えば、燕三条とか福井県の鯖江のように、機械関係の工場見学ができるような工場開きの日を設定するとか。観光客がその時期すごく増えている事実もございますので、そういうことも念頭に入れていただきまして、計画策定いただければと思っております。この5年間の中で、その丹工の施設の中に飲食とかも出来るようなスペースも作っていこうといったことも考えております。

あと私は、実は1年ほど丹後王国ブルワリーの、京都の錦市場の中にある丹後テーブルというお店の責任者をやらせていただいております。そこで丹後のものを扱おうということで、丹後の「食」を扱う形を取っていたのですが、実際困ったのが、生ものは多いのですが加工品が少ないということ。売る物がなく、探すのが大変だったというような現状がございました。もしかすると、「食」でアピールしている中での課題でもあると思うのですが、加工事業にももう少し支援するような仕組みも必要かと思えます。「げんげ」とかこの辺では言わないのですかね、「水、魚」と書く「げんげ」の干物とか、この辺で売っている所はあまりなかったりするんじゃないですか。でもあれは、干物としては最高級の味がするもので、この街で買おうと思ってもなかなか買えなかったりします。「食」の中でも、お土産物として足の長いものを分けて、加工事業というものも観光資源につなげて考えていくことも必要なのかなとは感じております

私どもの丹後織物工業組合としても、白物の産地ということで、完成品を外に提供できるようなものが少ないという事実がありまして、B to Cとしてこれから直接来られた方に販売できるものを作るということに関しても、支援というのはかなり強めて参りますし、逆に足りていないその部分ですね。最終加工できるような人材はたくさんいるというのはわかってきたので、京丹後に来たら着物を作って帰れるみたいなコンテンツを一つ作れば、それと宿

泊プランをくっつけて、今日一回来たら、3か月後にできるので取りに来てくださいと2回来てもらおうとか、そんな仕組みとかも作っていかうかと、今、話をしている最中です。また12ぐらいに、うちのコンセプトができますので、それはまた皆さんと共有させて頂いて、それでお話をお伺いできればなと思っております。

<坂上先生>

コンセプトレベルで産業観光のニュアンスが欲しいなということと、細かい事業の中では資料4になりますけれども、3の1に、丹後ちりめん、機械金属ということが書かれています。もうちょっと違うニュアンスで表現した方がいいのかもしれないですね。業種の対応しかしていない。先ほどおっしゃられた長寿ということと言うと、資料の4の3の2番目のオールシーズンに丹後寿ぐ旅というのが載っていますので、一応事業としては入れているのですが、コンセプトまで入れるかどうかはちょっとまだ検討でいただいたという風に理解をしております。

<委員>

今年から参画させていただきます京丹後市青少年スポーツ協会の谷口です。

初めて参加させていただきますが、立場上、話をさせていただきます。おかしなこと言ったら指摘してください。第3次計画から第4次計画に進まれる中で、一つ我々が認識しているのは、協会として、市の総合計画というのが発信されていて、その中に四つのキーワード「稼ぐ」という中にスポーツでの発信があり、我々その協会、もっと平たく言いますと、陸上競技、カヌーだけでなく、サッカー、野球色んな所で活動しておりますが、その中で競技場、野球場、サッカー場が整備されたことで何が起きたのか。やはり、京都市内や南部でやっておられる大会が、こちらでしっかりと誘致ができた。また大学駅伝や、何年か前には高校の駅伝を近畿大会のレベルでやらせていただき皆さん方にお世話になりましたが、そうした時に今回の計画の中で、スポーツとビジネスの観光ということで、一つの項目として束ねられているのですが、3次計画では4番のジオスポーツ、ジオアクティビティというところで掲げられ、具体的な内容が示されていることがはっきり分かったのですが、今回の内容をみますと、その内容をどう連鎖させようかなと。スポーツを一つ言いますと、大学駅伝、今度11月に行いますけれども、一つの大会に大学のスタッフ何十台というバスで乗り込んできます。その中で3日間だけではなくて、走るというコースの試走など、合宿的に入ってくると言うことがあります。ただそのことが、しっかりと受け入れの体制が組んでいるかどうかとなると、体制は整っているのでしょうけど、ビジネスと関連しているのか、観光事業とつながっているのかといったあたりがわかりません。ただ言えることは、11月から蟹のシーズンです。こここのころで協力させていただけるのではないかなと。ウルトラマラソンは、梨、ブドウそれからさつまいもなど、浜詰とか久美浜の方で農業をされている方に聞きますと、非常に潤うと聞いています。そのほかにも、夏の魚だとか、いっぱい関連付けができるイベントがあるわけです。そうした時に、このコンセプトの中で、スポーツ観光を具体的にさせていただけたらと思います。活動組織として、京丹後市を盛り上げていくメンバーとして、また青少年ということで、未来に向けて子供達が、京丹後市がどうあるべきなのか、社会教育的なところですね。そういったところのこともスポーツ業界では絡めておりますので、そんなところにしっかりと落ちるのではないかなと思っています。そういう意味で、コンセプトの中で、少しスポーツに絡めた言葉が欲しいなという風に思います。

<坂上会長>

スポーツをコンセプトの中で、ニュアンスを出すべきというご意見です。それぞれの立場で、それぞれのニュアンスを入れると混乱してしまいそうな気も致しますけれども、是非、ご意見は賜りたいと思いますのでよろしくお願いします。

<委員>

それぞれの立場での発言になりますが、私ども琴引浜なので、はだしのコンサートは来年28回目を実施する予定ですが、180人ぐらいの小さな村で、52軒ぐらいの者たちで今までずっと続けてきました。事務局体制など、市の環境保全の方、生活環境課から補助金を頂いて成り立っていますけれども、実質、ゴミを拾っている事が、もともとの活動だったのですが、コンサートですので、アート芸術という観点でいけばそのほうがむしろ前向きだと思います。私たち地元は「ゴミ拾いだ」みたいな感じで思っていますが、お客様からすれば、多分コンサートという文化芸術の方で参加されていると思うのです。三津の方でも、若い方が京都府の補助をもらって、今年3回目のアーティストを呼んだイベントをされました。ただやっぱり、次につなげようと思うと、補助金であっても自分たちで工面しなくてはいけない部分もありますので、今後、アートとか芸術、やっぱり観光の交流人口を増やすという点では共通する面があると思うので、そこら辺もどこかにあげていただけたらありがたいという感じです。確かに清掃活動とかビーチクリーンもあって、私たちも助かっていますが、やっぱり文化芸術という言葉のほうがやはり一般の人達には通じやすいと思いますし、市民もゴミ掃除って言うと負担に考えるけれど、音楽イベントとなれば、どんなものだろうとか、都会の先生が来られて、どういうものを作るのかって、まず見に来られる場になると思います。そんなふうにも今後も続けて行けるようイベントとして考えていただきたいなと思います。あと、私も観光業なので、観光の担い手がすごく不足している実感があります。ただどうしても、私たちの業種は、どこかマイナスイメージばかりで、しんどい、きついなど、3Kの言葉が出てくるのですが、この間、農業関係の見学に行った時に、都会から20代30代の方が入ってきているのをみて、なぜだろうと思った時、食の安心安全は、やっぱり若い人たちには分かりやすい。私たちの観光業では、3Kばかり言っているからやっぱり行きたくないみたいです。担い手を新しく育成するためにも、やはり観光業の良さというものをプラス面で発信していけるような方法をみんなで考えていけたらなと思っております。以上です。

<坂上会長>

宮津の橋立の方も、今芸術関係のイベントをすごく大きくやっているとお聞きしております。全国でも今観光地でアート芸術を盛んに行っておられますので、一つの大きな流れではないかなと思います。

<委員>

意見というよりも確認ですけれども、今これ振興計画のコンセプトということで、AからFまであり、このタイトルというのは、さっき先生が広告を打ったりする時は、また別のキャッチが作られることになるとおっしゃっていましたが、ここにあるタイトルというのはどういうところに表記されるということでしょうか。

<坂上会長>

事務局いかがでしょうか。これまでだと、旬とふるさと、なんか幟になっていたような気がすると思うのですが。幟になってふさわしいのはどれかなという風に思ってもいいかなと思うのですが。

<委員>

表に出るとのことですね。

<坂上会長>

それも含めて事務局から。

<大江課長>

先ほどの誰に向けて発信するものなのかということも関係があると思うのですが、観光振興計画は行政計画ですので、ズバリこれがそのままキャッチコピーのような形でお客様、観光客に出ていくというものではないのです。そういう側面も、もちろん踏まえながら、我々観光立市を掲げる町として、この5年間どういう方向性に向かってやって行こうかという、ある種スローガンのような考え方がこの言葉に込められていくという風に私は理解していますし、今までのコンセプトもそういうふうに使われていたと思います。ただ、今の第3次の食のコンセプトも「旬でもてなす」という言葉であったり、「旬でもてなす京丹後」といった言葉で幟を立てたりもしていますので、そのままズバリでなくても、それを加工するような形で、コンセプトが滲み出るようなPRをいろんな所で行ってきたいと考えています。

<委員>

そういうことであれば、ある程度ここに書かれているタイトルの言葉が表に出ていくということだと思うのですが、もちろん、皆さん、それぞれのお立場で、それぞれの思いもありますので、いろいろな言葉が入った方がいいのかもしれませんが、全部が全部入れられるわけではありませんし、そこからすると、私は、一応F案押しなんですけれども、スラっと人に入っていきやすい言葉の方がいいのかなという風に思いました。

<委員>

F案一票という感じでご意見をいただきました。

<委員>

先ほど、先生も言われましたけども、それぞれのお立場で、この計画に文言を盛り込んでもらおうと、何か予算をつけてもらえるんじゃないかという思いがあるとすれば、入れ込んで欲しいという気持ちは、皆さんあるのかなと思います。そういうちょっとゆがんだ目で、私も見てまして、エコネット丹後、何かあるかなと思うと、サステイナブルなお宿ってということで、今日ここにおられるお宿の方は、ほとんど天ぷら油の回収もさせて頂いてますし、入れて欲しいなあと思うことはあるんですが、やっぱり観光って、人に来てもらわないとどうにもならないので、あえて観光客の目線でどうなのかといった観点で共通していく必要があるのかなと思っています。そんな時に、二季型と平日を強化したいという中で、食事も平日

やってないところがあるなど地元民としてもちょっと寂しいという思いがあります。それから、安心安全のところでは外国人に優しいとあるのですが、障害を持った方にも優しい観光地というのは一つ大きなポイントになると思います。全国からでも、あそこに行くとなると車椅子でも動きやすいなということになれば集まっていただけではないかなと思っています。ここは観光の会議ですが、同じことを別の会議でも言うておまして、市長もいつも誰一人取り残さないとおっしゃっていますし、その視点は必要なんじゃないかなと思っています。以上です。

コンセプトの案は、どれでもなくて、素敵だと思うフレーズは、「懐かしいふるさと」、「会いにいく京丹後」というフレーズが素敵だと観光客目線で思います。

<坂上会長>

サブタイトルとメインのタイトルは変えることはできると思いますので、これがいいのではないかと思うものがありましたら是非ご意見いただければと思います。皆さん、ほとんど資料4と6を同時にお話いただいているように思いますので、4と6と同時にお話しいただければ結構かと思います。その点で、資料4の方でも強化したいところ、あるいは、今ご指摘いただいた障害とか抜けていそうな所は、是非ご意見を頂きながら、コンセプトと連動させていただけても結構かと思います。

<委員>

2度目ですいません。皆さんがそれぞれに自社の事業のところではプロモーションするのではなくて、体験という切り口にすると、皆様が、今おっしゃってくださった事って刺さると思うのです。うちもスイス村で様々な体験していますから、ここの中に、食を活かした観光という切り口は食でできていますけど、体験を活かした観光という中に、例えば、オールシーズンツーリズムがあるとか、あのワーケーションでも体験というものをどう使うかっていう風になるし、地域全体で今後、丹後に来たいって思うというテーマがある時に、体験指標があると提案しやすい。森に来た人にこんな体験できますよ、あんな体験できますよって言う意味では、先ほど私はFがいいって言いましたけど、このB案の進化するふるさと京丹後、人がつながる感動時間を、例えば体験時間という言葉にしまして、皆さんの体験を、この基本方針の中のどこかに入れていただくというのはどうかと、話を聞いていて感じました。以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。キーワードに体験という言葉を入れたらどうか。それは共通項だというご意見でございます。

<委員>

今のお話ですと、私が先ほど言いましたのは、タイトルがどれでもいいという話ではなくて、どれかが選ばれるとしたときに、やはりこのポイントとなるところに書いておかないと。先ほど先生はいろんなこといっぱい聞いてもと言われましたけど、私たちは、例えば何かキーワードとして、集うとか、集まってやっている方々のキーワードは、やはりこのポイントとして書かれなきゃいけないのではと思います。それを含んでいますよということは大事なことだと思うのです。先ほどコンサートの話もありましたけど、ごみ拾いだけじゃない

ですよと、やはり集って盛り上がっていくんだ、観光事業とマッチしているんだと言う所の腹落ちするところをかけくわえて、市民とかお客さん目線で考えると、それが伝わるようなことにされた方がいいのではないかなという風に思います。

<坂上会長>

集うというキーワードが入っていたらいいんじゃないかというご意見です。もちろん、このタイトルに説明文が付きますので、その説明文にニュアンスを皆さんからいただいたことをできるだけ可能な範囲で解説として加え、それとセットでご理解いただくことになるかと思えます。表現できない言葉もあるかもしれないので、前もってディフェンスしておきます。

<委員>

今お話のあった、集うということがすごく重要だなと思うのですが、つながりって集うからつながるということだと思えるのです。鯖江に6年住んでいて、勝山という織物の産地に左義長というお祭りがあるのですが、その祭りが低迷していたのですが、途中からすごく人が集まるようになった。いろんな出し物を出すのですが、人が減って担い手が少なくなったエリアのところ、外から来た人をお祭りに参加してもらえるようにしたんですね。引手がないからと、いろんな人を引手として入れ込んでいった。参加できるということで、たくさんの方が集まるようになった郡上八幡の祭を見て、それを真似て左義長もやったことで、人が増えだした。いろんな形で外から来た人が参加できるというか、受け入れていきますよということをちゃんと表に出していくような仕組みができれば、集まりやすくなるのかなと。例えば、スイス村さんでライブハウスをやっている方がおられまして、結構昔から知っているのですが、神戸から来た彼がライブハウスのノウハウをもって、そこに人が集いやすい環境を作ろうとした。その外の人も集まりやすい活動、ゴミ拾いをしにくる人も受け入れやすくしてあげることが大事でしょうし、さっきおっしゃられた障害者の方もお祭りに参加しやすいとか、うちの工場見学するラインは、車椅子でも大丈夫なようにするという設定を考えています。受け入れやすくするためには何が必要なのかと探っていくことが、全体の底上げになるのかなという気がします。受け入れようとしている町みたいところを、もっと出せるような文言があるといいのかなと。LGBTQの話もありますし、うちの中でも、男物と女物の和服しかないのではなく、途中の和服があってもいいね、みたいな話も最近していました。もっと間口を広げて、受け入れやすくしていますよっていうのを出していくといいのかなと思いました。

<委員>

コンセプトを含めて、本当に色々な魅力があるからこそ絞って言葉に落としていくのが難しいなと感じています。その中で、やっぱり何から順番に考えていくのがいいのかなと改めて今思っていたのですが、資料1を皆さん見ていただいてですね、やっぱり行政という立場で、計画、観光を取り組むとなると、人に来て頂いて外貨をしっかりと稼いで消費をしてもらうこと。併せて雇用と皆さんの生業をより良いものにしていくとその両側面かなと思った時に、資料1で、コロナの中で色々な数値が減少している中で、年間宿泊客数の減少幅は29万人と少し抑えられている。併せて年間の観光消費額は、この項目の中でも一番減少幅が少ないところから、宿泊をちゃんと保てれば地域への消費は守られると思えますので、前

回のコンセプトでも、滞在型の観光地というところを真ん中に置いていると思うのですが、改めて宿泊を通年で、平日ないし春秋にも来てもらえるというところを一番真ん中に置きながら、それをすることで雇用を埋める余裕ができて観光産業の担い手も育つというところを個人的にはコンセプトの考える一番のスタート地点に置くのがいいのではないかなと改めて思った次第です。

<坂上会長>

地域経済の活性化という視点で宿泊というものがやっぱりベースになるんだということをございます。コンセプトは特にいいですか。

<委員>

コンセプトに関しては、繋がりとか何回も来てもらうという需要を、春秋とか、平日にも盛り込まれるよう加味したコンセプトの素案を色々出して頂いているかなという風に思っております。個人的には、ここのサッシのおそらく最初のテキストに書かれるようになって、その翌ページに、なぜこれにしたのかという背景が書かれる、なぜこれにしたかということをしつかりと表現できることが大事かなとおもった時に、今申し上げた背景から、F案の方向性がいいのかなと思っています。

<坂上会長>

半分ぐらいの時間になりましたけども、是非初めての方もご意見を頂きたいと思いますが、いかがでございますか。ANAさん、いかがでしょうか。外部の方のご意見も是非いただきたいなと思います。

<委員>

今日、初めて参加させていただいております。非常に皆様の取り組みを冒頭からお伺いさせて頂きながら、改めて京丹後市は非常に魅力が多い市だと思いましたが、皆さんの熱意をすごく感じさせていただいて、今後、非常に楽しみだなというのが、率直な感想でございます。その中ではコンセプトってところで、皆様お話しされているのを伺ってましては、私どもの立場で言いますと、やはりお客様に京丹後市に来ていただくためのPRですとか、全国においてPRや魅力発信というところが役割としてお手伝いできるところかなというふうに考えますと、分かりやすいことが一番いいのかなという風に思っています。コンセプトの言葉で言うと、京丹後市の印象を全国でお話を伺っていると、海に繋がるということが、まだまだ認知度が低いと正直なところ感じています。やっぱり観光地として魅力のある海ですとか、あと今後進められたい森里山というところはキーワードとして必要なのかなと思うと、F案でしたりA案というところかなと思うのですが、一つ通年で言うと、歴史文化も非常に魅力的な市である、先ほどちりめんの話もありましたが、そういったところも非常におすすめなのかなと個人的に思っておりますので、文化という言葉なのか、あるいは人や繋がりといったところに包含していくことになるとしたときに、F案が一番いいのかなという風に思っています。その中で、色々、今後皆様のスポーツの部分ですとか、イベント、アートもお客様を呼び込むには非常に強いキーワードかと思っておりますので、コンセプトのポイント、案内の中に組み込んで行ければいいのかなと思っています。スポーツのところも、私たちグループでも非常に取り組みをしておりますので、またそういったところとも何かしらコ

ラボレーションできるのではと楽しみに思っております。感想を含めてになりますが、F案が一番いいかなと思っております。以上です。

<坂上会長>

F案が大勢なってきたような雰囲気が漂っておりますが、必ずしも決定ではございませんので、よろしくご理解ください。

<委員>

F案が圧倒的なようですが、丹後は、食も自然も素晴らしいのですけれども、すごい歴史があり、丹後王国と言われる歴史をもっと深掘りすると、ものすごく面白いんじゃないかなという感じがするんです。だからその歴史と文化、ちりめんとかそういうあたりの文言が入ったA案がいいかなと思っております。食もいいし、本当に自然も素晴らしいのですが、いろんな話を聞くと、丹後は歴史的に面白いところだと感じましたので、そのあたりの紹介というか、皆さんにわかりやすく広がってほしいと思います。

<委員>

うちは小さい宿なので、お客様とお話を直接することが多いのですが、リピーターのお客様も本当に多く、子供の頃に海水浴に来られたお客様が、今度大きくなって、カニを食べに来るわ、孫ができたから梨狩りに来るわ、と年代を重ね人数も家族も増えて、そういう点ではとても喜んでます。子供さんや若い方達にもわかりやすく、皆さんの話を聞いていると、何回も来てほしいとかいうのがあるので、F案の感じで、もっと簡単な、もっと味わい丹後みたいな、楽な感じのタイトルでいいのかなと思いました。

<坂上会長>

親しみやすい、もっと楽なフレーズが良いのではないかというご意見頂きました。時間が無くなってきましたので、お一人ずつ、発言いただけてない方をお願いしたいと思います。

<委員>

資料を見させてもらい、観光は海がメインになるかなと思いますけど、僕は宮町で海に面しない町なのですが、そこで、どうやってその観光が呼び込めるかみたいなことも考えています。農業者の立場で言うと、自分で作ってもてなすことはなかなか難しいので、飲食店さんとか、旅館さんとかと繋がるのがいいのかなと思っております。個人的には、泊まりのお客様さんは泊まってもらって、食べるのは外で食べてもらいたい。町を見てもらうような、できればタクシーとかで行くのではなくて、1時間か2時間おきに周遊するバスがあって、違う店で飲むときも使え、自分の宿まで送ってもらえるみたいなシステムがあると、一か所にとどまるのではなくて町全体の店が回れるのかなと。その中で、農業者としては、飲食店さんに緑の提灯や、地元食材を使っていますというPRをしてもらえると、観光客に丹後の食材を食べていると満足してもらえる。せっかく丹後に来たのだから、食材は丹後のもの。簡単に使ったらいいってことは言えないんですけど、でも提灯が掲げていると、あそこは地元食材だ、食べたいなと思ってもらいたい。生産者ももっと協力し相談しながら取り組んでいきたいと思っております。

6町合併して1つの市なのですが、細かいとこまで行き届かそうと思うと、旧町単位か、もっと細かい単位でまとまって、観光客をサポートするみたいな体制があり、その地域の住民も楽しむ。楽しんでいる町だから一回行ってみたいと思う。そういうのがあるといいなと日々考えています。B案の感動する時間、人と繋がる感動する時間が、この説明の中で書いてある「とき」というのがいいなと思います。

<坂上会長>

インバウンドを考えた時に、一泊二食の日本のスタイルが合わなくて、泊食分離の課題が出てくるかと思います。外国人にとっては少し違和感を抱くところですので、今後のあり方として、そういったことも細かいエリアでそういう対応を考えるというのも課題であろうかなと思います。また、「時」ということが大切ではないかなと。安心という点で農業はすごく今注目されているかと思いますが、先ほども話されていました若い方が農業に行かれる方も結構おられると聞いております。

<委員>

京丹後市でも最北端の丹後町宇川地域で経ヶ岬の灯台が文化財に登録されたので、4次に向けて、このチャンスを活かすべきだと思います。そこで京丹後市から施設をお借りして販売もしています。年間5万人以上の観光客がいらっしゃって、コロナで少なくなりましたが、私はタイトルはどうでもいい。この中でも何がいいかというと、繋がること。今、ポツポツ色んな所で、みんな頑張っているけど、それを繋がる形にどんどんしていかないと。灯台で販売をしていると、伊根町方面からのお客様は、伊根町と丹後町は繋がっていると思っても、経ヶ岬に来られた後は、どこに行くかということポツンと切れる状態。交通機関もそうです。丹海さんいらっしゃいますけど、丹後半島を回る交通機関がない。あそこで販売していると、それは非常に残念。丹後町では、支えあい交通がありますけど、個人的に伊根町の観光協会の方と繋がると。行政云々ではなく、自分たちでやろうじゃないかということで動きたいなと思っています。

キャッチフレーズは大切ですけど、やっぱり行政区の中だとか交通のインフラの部分を整備していかないと。悔しいけど、伊根町はブランドが立ち上がっているのです。そのお客さんを逃さないようにどうするかということ、丹後町も考えるべきだと思います。だからこれは京丹後市だ、伊根町だと言ってないで、丹後半島を繋ぐ大きなプロジェクトをすべき。せっかくこういう機会をもらえたので発言しますが、行政の幅を突破したところで繋げる形がとれたら絶対いいと思います。伊根町もある程度頂点に達した部分があるので、観光客はインバウンドも素朴な体験をしたい、もっと地域の人と繋がる観光がしたいという声を外国の方から聞いているとお聞きしていますので、これからは、京丹後市にとらわれず、丹後半島をつなぐその要、きっかけとして、つい一昨日承認された経ヶ岬灯台をもっと利用して、そこに来られたお客様を、夕日ヶ浦とかいろんなところに繋げるような、そういう観光資源を大事にするような、プロジェクトを進めたらいいのではないかなと思います。そういうつもりで今日参加させてもらいましたので、是非皆さんと色々な個人的な繋がりを持ちながら、丹後半島、丹後町そして京丹後市が潤うような、そして若い人の生活含めて安定したものになって、居住する人が多くなるような、そういう観光資源としての道を作ってきたらいいかなと思って参加させていただきました。

<坂上会長>

個々のエリアの戦略も少し重要ではないかなと。久美浜は豊岡市と、色んな所でやっぱりニュアンスが変わってくると思うので、色んな繋がりが必要だなと思いました。それから、インバウンドの海外の人の調査をすると、例えば、四国のお遍路がすごく人気だと聞いています。これも日常生活の中で歩いてずっと回るといふ、そういったところに注目が浴びているので、少し生活のレベルに入っていくような、ふれあいというのが大切ではないかなといったご意見であったかと思います。

<委員>

ワーケーションという観点から、今回参加させていただいていますが、このタイトルに関して、どれがいいかという正直あんまりよく分からなくて、F案が私もわかりやすいと思いますが、全体的に古臭いなと思いました。私は、神戸から二拠点居住で、子供たちと一緒に今はこっちに住んでいるのですが、そういうところでも京丹後の良さとか体験の価値とかは体感してすごくわかっているのですが、何かと出てくる文字は旬とか上品な言葉がとても多くて、蟹というところもあるので、そういったハイグレードな方もいらっしゃるから、そういう言葉がよく使われるのかもしれないのですが、もう少し分かりやすく、もう少しアートな感じ、丸田さんがおっしゃったアートな感じの視点を入れたタイトルの方がいいのかなと思っています。吉翠苑の横にも来月にはサウナができるんですが、その立ち上げに関しても移住してきた方がやっておられるのですが、そういった若い方の観点もありますし、「サウナで整う」という言葉がすごく流行っているらしいですが、そういった若者も受け入れやすい、tiktokにもあげたくなるような、キャッチなニュアンスも少し入れてもいいのかなと個人的に思いました。

<坂上会長>

同感します。

<委員>

最後の最後になりましたので、たくさんのお話聞かせて頂きまして、どれもこれも皆様の熱い熱意やらいろいろと聞かせていただきました。私も簡単に言えば、例えば、個人的には、八丁浜のような大きな広場があるので、そういうところを使って、有名なアーティストが来て、ライブしたらもっと潤うだろうとか、簡単に思っていたのですが、そんな簡単なことではないなと思いつつ今おります。

交通の便のご意見がありました。運転手にしたら、拘束時間とか色んな縛りがあるので、丹後半島一周も含め色んな例があり、定期観光バスは、20年くらい前はすごく潤っていたのですが、それがマイカーに変わって定期観光バスというものはあまり使わなくなり、今では廃止に至っています。それこそ丹海バスにボンネットバスって可愛いバスがありますが、これも昭和時代の方には懐かしいと、年配の方やマニアのグループ様で団体として来て下さったり、チャーターしてくれたこともあります。これがイベントや、先ほど農業の方も話しておられたようなお酒やお食事の食べ歩きとか、そういった場面でボンネットバスが使えたらいいなとちょっと私の中で考えておりました。バスのことになると、市役所になり、路線バスの関係にはなってきますので、私が深く言えないところもありますけれど、社内に持ち帰って観光につなげられるようにしていきたいと思っております。

<坂上会長>

時間が徐々に迫っておりますので、大切な宿泊関係の所の発言をいただきたいと思いません。

<委員>

宿泊施設からだ、京丹後はいろんな価値あるものがあるので、そこに宿は繋げていくことで、滞在していただく期間を長くするという形が大事だと思います。またお客さんの目的は、梨狩りとか酒蔵とか、それこそ伊根に行きたいとかいろいろあると思いますけど、それをどういう風に案内していくかは宿ではいつも考えることですし、どう伝えたらいいかというのがあるのですが、そういう意味で、ここでいうと繋がりとか、繋げていくという言葉がやっぱり大切かなと思っています。第2次計画では極上のふるさと観光づくり、第3次は旬でもてなす食のまちということで、食をアピールされていたのですが、今度、繋がりという部分を入れていただいたらなという気はしております。

<委員>

夕日ヶ浦の方でも、以前からですけど、海岸の活用方法とか、それをどういう風に発信していこうとか、地域の知名度をどういう風にあげていこうかと考えています。先ほどから出ている人と人とのつながりや、イベント、集うといったところを一つのコンセプトにあげて、いろんなビーチイベントを今開いているところです。夏前になりますと、参加した人間みんなで作ろうと、キャンドルナイト、光をモチーフにして海岸を2000個のライトで埋める活動をしてみたり、今度は、地元の活性にもつながるように、地元のキッチンカーを呼んでテントサウナを楽しんでいただくイベントもさせてもらっています。

もう一つなんですけど、今年の夏に、ワンハンドビーチクリーンという企画を立ち上げて、夕日ヶ浦独自でやらせていただきました。直訳すると、みんなで、片手で海岸を綺麗にしていこうねっていう活動で、10時と3時にマイク放送し、海水浴客や観光客、地元の人、商店の人、浜店の人に一齐に10分間掃除していただきやりました。とても好評でした。子供たちがゴミを拾いながら、どこに捨てに行ったらいいのとか、海岸の中で一体感がすごく見られ、我ながらいい企画だったなと感じています。こういう機会でありますので、例えば海岸だけでなく京丹後市全体で考えて、里山でも川でも河口でも、全部そういう活動ができればいいと思いますので、ちょっと一つ提案させていただきます。以上です。

<坂上会長>

儲けの話はおっしゃっていないんですけど、周りの繋がりが必要だということだと思います。

<委員>

資料4を見させていただいて、この6番地域ぐるみで進める観光地作り、その視点は、私も非常に大事だと思っております、実は、私は5月まで京都市内で勤務しており、こちらに帰ってきたんですけども、戻ってきた時に、美しい景色とか、おいしい食とか、非常に魅了され、さすが丹後やなあと思ったのですけれども、地元の人に話を色々お聞きしますと、丹後は何もないと言われるまして、こんな美味しいものがあるとか、こんな景観があるみたいな発言をしていただけない。非常に残念だなと思っているのですが、前に勤務してい

た京都市内の方で話をすると、文化とか観光とか景観とか、非常に皆さん、自信を持って発信されているところがありまして、その発信が、京都市民全体の自信が、京都市内の観光に繋がっているのかなというふうにも感じますので、ぜひ京丹後の方も、市民の皆さんに観光を進めるにあたって、地域でこんな自慢があるんだ、地域にこんな良い所からこんな美味しい食があるんだ、誇りを持ってこうやとなるような取り組みを進めていけたらいいのではないかなと、ちょっとそういうふうには考えました。以上です

<委員>

資料4の構成を見ると、1と2あたりはコンテンツの話で、3あたりはプロモーションで、4.5あたりが基盤とか組織の話で、6がその地域との関連みたいなそういう括りかなと思って見せて頂いていました。この中に書き込むのかどうかはありますが、多分必要な項目は全部入っているので、これをどうこうは言わないのですけども、どのようなコンテンツをどのような方法で伝えていくのかというところや、そのためにどんな組織体制が必要かとか、そういうあたりが、この中で見るのができたらいいなと思っていました。例えば、先ほど、宿泊客を増やすことを目的としたらどうかみたいな話もあったのですが、そうするとコンテンツってナイトコンテンツみたいな話も出てくると思ってまして、それをするために、どういうコンテンツが必要でどういう体制が必要かみたいな話が多分この中に入っていると皆さんが動いていく方向が見えやすいのか思いました。この計画に書くかどうかは別として、そういう議論ができたらいいいのかなと思いました。以上です。

<委員>

各種団体、色々な意見や考え方をお持ちで、それが皆さんと繋がって観光というのが成り立っていると思いますので、コロナで観光が減って、魚屋さんとかいろんな業界の方は落ち込んでいると思います。しかし繋がることによって観光も良くなるし、観光に来られることで、各種事業者の方々も良くなるという考え方が芽生えたわけで、それをどう繋げていくかは、こういう会議をもって、色んな意見を吸い上げて、行政の方がこういう方向で行くという感じになると思いますので、そこは、日本全国コロナで落ち込む中、丹後にしかない何かを求めるといってないで、なかなか京丹後を知ってもらえないと思います。僕らもよく旅行に行ったときに、京丹後から来たっていうと、それどこ？京都府に海あったの？と言われるのですが、京丹後ってあそこやねとなるよう認知度を高めることが一番大事かなと思います。私事になりますが、自分とこの店をどう売るかというときに、うちの店名は全国に一軒しかないんですよ。それをどう売るかとか、どう知ってもらうかとなると、色々なコマーシャルや先行投資を考えるわけです。結局、儲け度外視で宣伝してもらってお客を呼ぶとかそういうことになってくると思うので、一企業ですることは、とてもしんどいです。皆さんがやっぱり繋がって、行政なり繋がって、認知度を上げるというのが一番大事かなと思いますので、貴重なご意見を頂いたのでありがたいと思います。

<坂上会長>

まだ3名の方ご発言頂いてないのでお願いしたいと思います。

<委員>

アミティ丹後では、丹後2市2町の地域の地場産品の展示販売を主に行っておりまして、事業者や関係団体の皆様とも連携をさせていただいて、お客さんに繋げたり、協力いただいているのですが、最近の傾向として、いわゆる従来型のお土産品から、果物や農産物、水産物の加工品とか、そっちの志向が非常に高くなっております。昔は団体客がどんと来て、皆さんがご家族用とかで使えるお土産品、お土産菓子的なものを多く買われたんですけども、小人数が増えてきたということもあり、そういう農産物とか果物が非常に販売が増えております。ここでしか買えないもの、せっかく来たんだからこの美味しいと言われていたものを買って帰りたいという方が多いのかなと思っております。ここでしか味わえないとか、体験できないとか、京丹後には沢山あると思いますので、それをもっと発信して頂いたらどうか。いろんなフレーズは、どこの町でも同じような観光計画で、多分戦略は立てられておると思いますので、京丹後でしか味わえない、体験できないというものを尖らせていただいたらと思います。

もう一つは、農産物とか地場産品の製造にあたっている方が、高齢者の方が非常に多くて、全体に言えることなのですが、観光に携わる人材をしっかりと確保していかないといけない。同時に、非常に魅力のある方がたくさん携わっておられると思いますので、そういった方をもっと発信していく、人が地域の魅力アップに繋がるのではないかなと思います。以上です。

<委員>

私は、海業の関係ですが、なかなか海業も現状は厳しい状況になっています。5~6年前までは生産量もあったのですがだんだん落ち込んでしまって、間人ガニや季節ものについてはご利用いただけるのですが、普段使われる魚介類については、大変厳しい状況になっています。ということは、やっぱり少子高齢化に伴って漁業者が激減してしまっていて、かなり厳しい状況が続いているということです。この負のスパイラルを何とかしていくには、観光に携わる方々のご協力がないとプラスに転じさせることはできないという状況です。先ほどから出ていますが、小さな単位で一生懸命やっている、旅育だとか、はだしのコンサートもそうですし、そういった小さな単位でやってもものに対する救済ができてなくて、だんだんマイナスになってしまうというのが京丹後の実情だろうと思います。その辺りをみんなで協力し、人作りをして繋げていく、そんなことが必要かなと思います。振興計画と裏腹なことを言っていますけども、そういうマイナスをプラスに転じていくという発想も一つこの中に加えていただけたらと思います。それからもう一点、案外田舎というのは災害に強い部分も持っていますけども、都会から来られた方が、自然災害の怖さというものをあまり知っておられないので、一緒になって自分の身を守る、そんな安全に対する教育を、おこがましいですけど、都会の人にしていこうという部分も、観光とのリンクの方法があればなという風に思っています。

<委員>

ジオパークのガイドが中心ですが、山陰海岸ジオパークは、鳥取、兵庫県、京都府と三府県をまたがっていますけども、最近はそのポイントガイドというよりも、トレイルですね。ジオのトレッキングというのがあり、中高年の方が多いですが、今は観光地を巡るというよりも歩いて自分で行きたい所に行きたいとか、ウォーキングして、その地域のおいしいものを食べるより、地域にしかないものをすごく望んでいるように感じています。今まで

はガイドというと、ポイント、史跡とかそういう所に行って、そこのガイドというのが多かったのですが、今はそうでなくて、そこの地域しかないような場所にきて町歩きをしたいとか、山陰海岸の場合は鳥取県から京都府までジオトレイルとって繋がって、そこで各ポイントでガイドしながら歩くというのが結構ありまして、うちの情報センターでも結構トレイルの観光客が多いんです。ポイントガイドよりも。今はそんな状態ですので、トレイルしながらゴミ拾いをするとか、海岸清掃に協力をするとか、そういう繋がり、先ほどから観光の繋がりが出ていますけど、それってすごく我々も感じています。お互いに協力しながら、ガイドだけがするのではなくて、旅館の方たちとか色々な方々が協力しながら、トレイルが成功するような形になっていけばいいかなとすごく感じております。

この前も中学生が海岸線に清掃に来てくれまして、我々もちょっと協力したのですが、やっぱり一番私は世界に響くSDGs観光。これが一番かなという具合に考えております。今のどういう風にしていったらいいかとかそういうことでなくて、やっぱりこれからはSDGsに繋がる観光が一番かなという風に思っております。以上です。

<坂上会長>

一通り、皆様のご意見をいただくことができました。進行管理がまずくて10分以上超過をしております。少しまとめに入らせていただきたいと思います。

骨格案、資料4については概ねこれでいいのではないかというご意見も頂きまして、今日いただいた意見で抜けている点や強化すべき点、そういったことを補足させて頂いてリニューアルをして参りたいと思います。この骨格については基本的にはアクションプランの内容とか表現については再考するとして基本的にこれでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

次に、KPIというのをご説明させていただきまして、数値で施策の評価をしていく項目について、事務局から、あらたに、リピーター率、オールシーズンの平準化、春と秋が少なく冬夏が多いという平準化率をできるだけ緩和していくという、こういう数値を追いかけていきたいということで上三つについては止めて、新たにリピーターと平準化率を入れていきたい。これについてはよろしいでしょうか。ありがとうございます。まず重要な方に選択をしているという風に理解をしていただいたと思います。

コンセプトにつきましては、多くのご意見をいただきました。施策との考え方も連動致しますけれども、観光というのはどんなテーマでも握手できる産業だと思います。観光と福祉、観光と農業、観光と水産業、観光と環境いろんなことが全て総合的に繋がっていく産業ですので、今日のご意見は非常に繋がっていくということが大きなキーワードになる。それを集いと表現するかどうかは、色々な表現方法があるかなということでもあります。今日出てきた意見の中では、ややアートだとか文化芸術、歴史みたいなニュアンスも必要ではないか産業観光、ヘルス、長寿のヘルスの関係、スポーツの関係のこういった方々のニュアンスも欲しいなあと。全国的には海とか歴史文化は引かれるなというご意見がございました。

宿泊も非常に重要だということで、あと少しもっと気軽な表現方法を、もっともっとという言葉も出ましたけども、平易にわかりやすい言葉もあってもいいんじゃないかというご意見も頂きました。そういう点で、若い人々の感覚もあってもいいかなというご意見であります。事務局としては非常に更なる難題が突きつけられたようにも感じますが、これを手がかりに答えを導いていく以外、道はなさそうだなと思いますので、事務局の方で今日出たご意

見を元にコンセプトの再考、コンセプトにつきましては、市長のご意見を踏まえて、また事務局でご検討させていただくことになろうかなと思います。

KPIについては、これで進めさせていただきます。骨子については、皆さん方からのご意見をもとに、事務局の方で議事録を取って頂いて、無理のない計画案として整理をしていただきたいと思います。これらを整理して、次回の会議に計画案としてご提示をお願いしたいと思います。

では活発なご意見ご議論いただきまして、ありがとうございます。これで会の議事を終わりたいと思います。議事進行にご協力をいただきましてありがとうございます。マイクを事務局にお返しさせていただきます。ありがとうございます。

<高橋部長>

ありがとうございます。たくさん委員の皆さんから意見を頂きまして有難うございます。たぶん、時間の関係で言い足りなかったことが、たくさんあるではないかなと思っておりますので、もしそういったお気づきの点がありましたら、事務局の方になんなりとご連絡いただきましたら、併せて次の会議にはかかっていくような形で検討を進めさせていただきたいなと思っております。次第のその他ですけれども、こちらの方で何か情報提供等ありましたら、ご発言をよろしく願います。

<委員>

お手元の方に、海の京都コインというカラーの資料を配らせていただきました。こちらの方、先週10月7日の京都新聞の一面の方にも取り上げていただいたのですが、京都府北部7市町で実施をします旅先納税というサービスに伴うものです。ふるさと納税の仕組みを使いまして、新たに誘客ですとか周遊観光を進めようというようなものです。

ポイントは三つあります。一つはふるさと納税の手続きをしていただいたら、すぐにお手元のスマートフォンに、その返礼品が届くということです。即時発行が一つのポイントです。二つ目は7市町で利用ができます。京丹後市にふるさと納税をされた方が、京丹後市のお宿はもちろん、宮津市の飲食店ですとか綾部市の体験でも使えます。反対に、宮津市でふるさと納税された方が、京丹後市の店で使うこともできるという仕組みです。それから加盟店さんの方には、現在募集をさせて頂いていますけれども、決済金額の10%上乗せでお支払いをさせていただきます。これは例えば3000円のお店で決済されたら3300円をDMOからお支払いするという仕組みです。この理由は、ふるさと納税をしていただくことになりまして、お店の店頭での告知ですとかお得意様へのお知らせをしていただきたいと思いますという思いがありますので、そのための協力金ということで10%上乗せしお支払いするという取り組みを、今年度と来年度は少なくともさせて頂きたいと思っております。従来にない地域の皆さんと一緒にふるさと納税の獲得を目指していく取り組みでもありますので、ちょっとまたお手元の資料を見ていただきまして、是非あの加盟店の方に関係する所につきましてはお入りいただきたいと思います。以上です。よろしく願います。

<高橋部長>

なにか、またご質問等ありましたら、この後、直接お尋ねいただければと思います。事務局からも特段に連絡事項はございませんが、第2回の会議につきましては、日程調整をさせていただきますので、改めてそれぞれにご連絡をさせていただきたいというふうに思いま

す。それでは本日はこれで閉会とさせていただきたいと思います。閉会にあたりまして、齊藤より閉会のご挨拶をお願いいたします。

<齊藤副会長>

皆さん、ご苦労さまでした。時間が多かったのか足りなかったのかよく分かりませんが、ご意見ありがとうございました。次回もまたよろしくお願ひしたいと思ひます。今日はどうもご苦労様でした。